

ようきてちょーた瀬戸!

編集:瀬戸市おもてなしボランティア
季刊誌作成チーム
発行:瀬戸市 まるっとミュージアム課

No.15 2010. 3. 25.

特集! ☆☆☆窯めぐりの魅力☆☆☆
作り手と直接触れ合える! イベントを楽しむ!
工房が見られる! 気軽に(ろくろ、絵付け)体験できる!

・ 3つのエリア ・

赤津エリア
品野エリア
水野エリア

瀬戸の窯めぐりの楽しみは、何があるのだろうか?

大きな楽しみの1つは、お目当ての窯元のギャラリーに入って、自分のお気に入りを見つけ、リーズナブルな価格で手に入れること。

そして、窯元さんの話から、その窯で焼いた物の形、色などのこだわりを発見し、自分のコレクションに加える、という楽しみもある。

また、普段何気なく手にしている器やお皿が、「こうやって作られているんだ」、という発見も楽しいものである。

あるいは自分で絵付けや、ろくろ体験を通して、もの作りの楽しみを得るのもいいだろう。

本当に瀬戸には多くの窯元があり、窯めぐりでは普段入れないような窯場や、現存している昔の石炭窯や登り窯・穴窯なども見せてもらえる絶好の機会です。

窯元たち 待ってるよ
気さくなんだ。
陶芸体験、掘り出し物の
の入手もね。
おもてなしもあるよ。

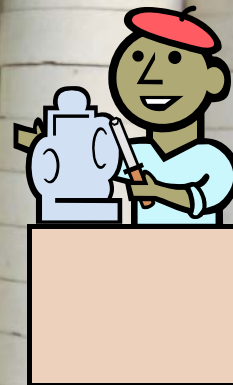


写真: 渥己窯 (水野)



美夜之窯 ピザ窯
(水野)



美夜之窯 登り窯
(水野)

窯めぐりは春と秋の2回開催されます。

11月には「ゆるり 秋の窯めぐり」
が開催されます！



品野台小 登り窯
(品野)

9月招き猫まつりでの陶芸体験の作品を品野台小学校の登り窯で80時間焼く。薪の灰がかかり独特の風合いに出来上がります。陶芸体験参加者は、この登り窯の焼成を見学できる。秋の窯めぐり時に作品を配布。

しなの工房めぐり

品野地区の窯元は、食器から雑貨・染付まで何でも揃っています。また、窯元がそれぞれおもてなしの工夫をし、製造工程の公開や、陶土採掘場の見学や、焼川魚など作陶以外の楽しみもあります。また、秋の窯めぐりでは、陶玉集めもおもしろいです。窯元独自に作られた陶玉を品野陶磁器センター前の本部テントで販売される皮ひもに通しながら窯めぐりをしていくのです。窯ごとの特徴のある陶玉なので、ひとつだけでもネックレスやストラップにできる優れたものです。是非参加してみてください。地区内を走る無料シャトルワゴンを利用すれば陶玉もたくさん集められます。

「倶楽歩杜(クラフト)の品野」では、9月の招き猫まつりの作陶体験での指導や、小学校と連携し登り窯の焼成の手伝いに尽力するなど、さまざまな活動をしていきます。代表者の水野義久さんは、「伝統の登り窯を継承していきたい、土に触れて形造りを味わってほしい。こんな使命感から何年も続けている。お客様からアイデアを頂くこともある。」とのこと。

しなの工房めぐり
5月8(土)・9日(日)

水野窯めぐり

自然豊かな水野の里では、自然の風景を楽しみながら、やきもの探訪や陶芸体験がおすすめです。

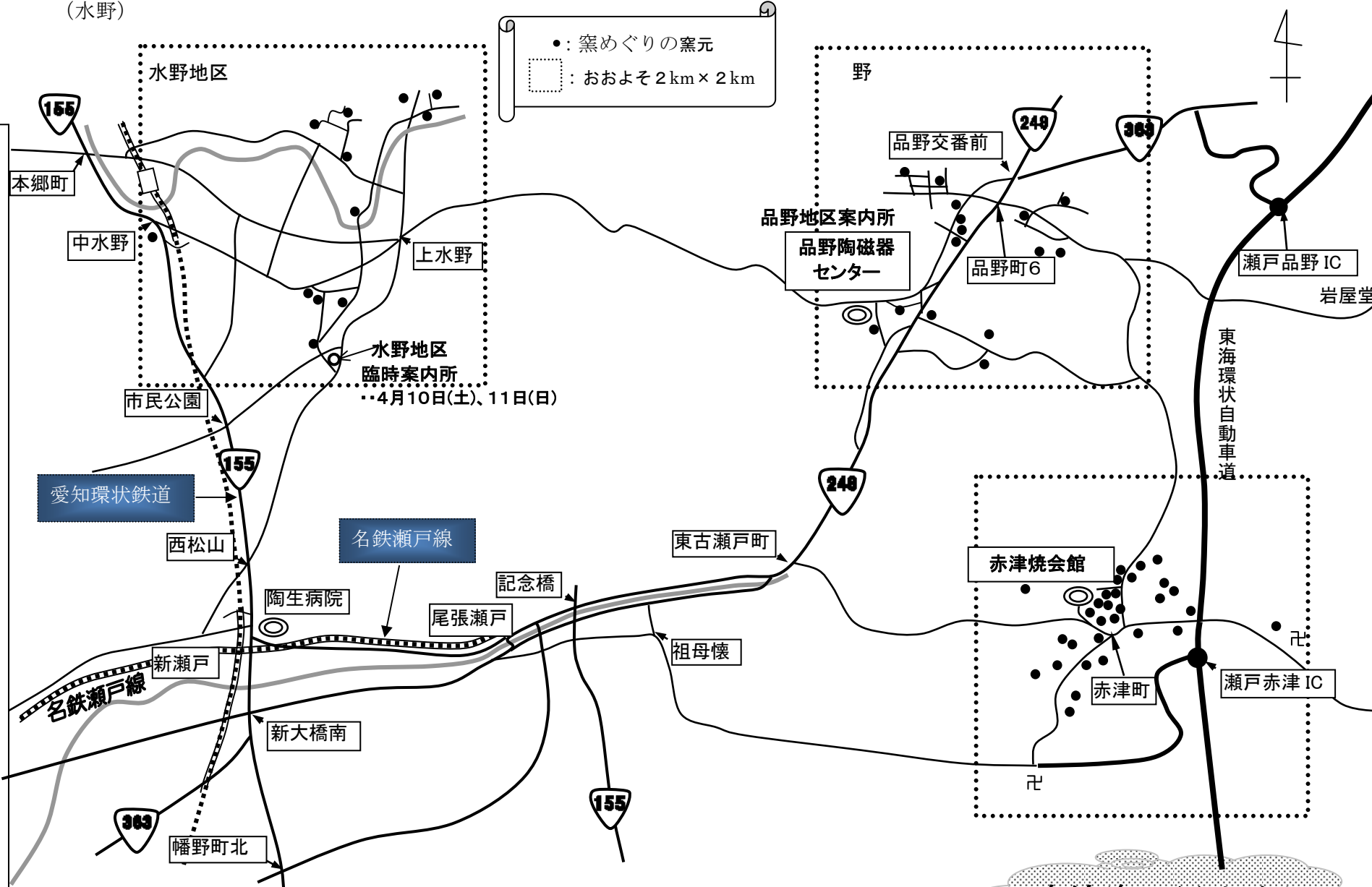
水野地区の窯元は12件と、赤津・品野と比べて工房の数が少ないですが、土物(陶器)、磁器物、染付と、いろいろ豊富です。一軒一軒が趣向を凝らしています。また、すべての窯元で絵付けやロクロなどの陶芸体験が気軽にできます。

椿窯の林栄治さんは、「銅版転写のお試しが出来るように考えている。銅版転写で貼った時は茶色で、焼き上がりは青になる。鉄分を入れると絵が柔らかい感じに仕上がる。ゴスは調合して糊を混ぜて銅版に貼りつける。焼くときに糊自体を飛ばす。」興味ある話もいろいろ聞けます。

また、登り窯や古窯などを見学できる窯もあります。

美夜之窯では、ピザ窯でピザの振舞いがあります。前にある川の流れる音に心を癒されながら、窯元の作品が楽しめます。また、登り窯なども見学できます。

水野窯めぐり
4月10(土)・11日(日)



赤津窯の里めぐり

軒先に積み上げられたエンゴロや屋根瓦なども赤津ならではの窯元ならではの窯元があるので、赤津の町並みも楽しめます。

「赤津焼」は陶器にこだわり、多彩な釉薬で「土もの」の味わいを表現し続けています。昔から人々の心を魅了してきた真髓は、永い歴史と受け継がれてきた高い技術に裏打ちされての事とされます。「陶芸は、①土②焼き③細工。地元赤津の土にこだわり、一つ一つの作業と研鑽努力の積みあげです。」と喜多窯 霞仙の加藤裕重さん。

窯めぐり当日には、「赤津体感ツアー」として、窯元が魅せるプロの技の実演や、ガイドツアーなど、つぶぞろいのワークショップがたくさんあります。苦労話を聞いたり作品をみたり、体験して見る事も、楽しみの一つです。赤津窯の里めぐり 5月8(土)・9日(日)



飛鳥窯 エントツ
(赤津)



飛鳥窯 穴窯
(赤津)



赤津・品野は、イベント当日は、尾張瀬戸駅から無料の回遊バスが走ります。また、水野・品野地区は、窯元までが離れているので、各本部から地区内を無料シャトルワゴンが走ります。

豆知識

☆陶器と磁器の違い☆

陶器は「土もの」とも呼ばれ、900～1200度で焼かれたものです。土の素朴な風合いや職人の手作業の温かさが感じられます。表面の質感は荒く、吸水性はありますが透光性はありません。

磁器は「石もの」とも呼ばれ1300度前後で焼かれたものです。表面は白くガラスのように硬くなめらかです。吸水性はなく、透光性があります。

☆購入のチェック点☆

・直接口を付けて使う茶わん、コップは口にあたる上部の縁を指でなぞってなめらかさを確認する。

・収納を考えた選択をする。
同じ器を複数買う時など重ね合わせ具合の良い器を選ぶ。



☆お手入れ☆

・白い陶器は料理の色がしみ込んでしまうことがある。使い始めの米のとぎ汁で隙間を埋めるとしみみにくく、白い色を保ちやすくなる。

(20分程煮沸しそのまま冷めるまでおいて自然乾燥させると良い。)



●伝統的工芸品のいろいろ●

あかづななゆう

せとそめつけやき

赤津七釉 (釉薬) と瀬戸染付焼 (製品)

瀬戸では「赤津焼」と「瀬戸染付焼」が「伝統的工芸品」に指定されています。

赤津焼の特徴は、なんととっても多彩な釉薬。赤津七釉と呼ばれる7種類の釉薬が使われます。

灰 釉

平安時代前期にはじまり、自然釉を用いる日本最古のうわぐすり。現在は木灰(なら、楓、松)に長石・千倉(花崗岩の風化したもの)を少し混ぜて釉薬を作る。

鉄 釉

鎌倉時代、鬼板粘土を使用した茶色の焼物。中性で焼成するのが一般的。

古瀬戸釉

鎌倉時代に生まれた鉄釉の一種。特に渋手紙の古瀬戸は有名。
茶入れ、水指など茶道具に多く使用されている。

志野釉

安土桃山時代、日本で生まれた初の“白い焼き物”。
風化長石のみを釉薬として使用し、たっぴりと施釉して強還元で焼成する。
下地に鬼板を掛ければ単志野になる。

黄瀬戸釉

安土桃山時代に生まれた鉄釉の一種。
酸化による焼成で釉薬に含まれる少量の鉄分が上品な黄色に発色する。

織部釉

安土桃山時代、茶人古田織部の好みによって生まれたもの。土灰・長石・千倉を使い、銅へげを加えると深みのある緑色(赤津焼の青織部の特徴)になる。

御深井釉

尾張徳川家が名古屋城御深井丸の庭に築窯し、尾州御庭窯と称して焼物を焼いたのでその名がついた。呉須で絵付けをした上に灰釉を掛けて還元焼成した作品はすばらしい。

瀬戸染付焼

瀬戸では約200年前の江戸時代後期に生産が始まる。白地の素地にコバルト顔料による絵付けを施し、透明の釉薬をかけて焼成したもの。ウィーン、パリ万国博覧会に出品され高い評価も受け、絵師による絵画的技法(染付画)にも魅かれる。

【出典：赤津読本】

*この季刊誌「ようきてちよーた瀬戸！」は、瀬戸市おもてなしボランティアの季刊誌チームメンバーが、ボランティアの目線で瀬戸の観光情報取材し、作成しています。ぜひ、誌面に対するご意見・ご感想を事務局までお聞かせください。
季刊誌「ようきてちよーた瀬戸！」は、まるっとミュージアムのホームページに掲載しています。http://www.seto-marutto.info

《瀬戸市おもてなしボランティア事務局》

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町1番地の1

TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 E-mail: marutto@city.seto.lg.jp

